



兵庫県広域防災センターにて



総指揮者浄慶副会長を先頭に入場！



井戸知事 激励のことば



岸谷会長 あいさつ



ポンプ車の部・優勝 南あわじ市消防団！



小型ポンプの部・優勝 福崎町消防団！

第二四回 兵庫県消防操法大会開催！

南あわじ市消防団が全国大会へ出場

平成二四年八月五日(日)、兵庫県広域防災センター・北グラウンドにおいて、第二四回兵庫県消防操法大会が開催されました。

当日は、灼熱の太陽が照りつける夏らしい天気の中、県下九地区から選抜された代表



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 岸谷 義雄
題字 井戸 知事

消すまでは
出ない行かない
離れない

チーム(小型ポンプの部九隊、ポンプ車の部九隊)が集まり、熱戦を繰り広げました。大会は浄慶大会副会長が務める総指揮者を先頭とする入場行進で幕を開けました。

開会式次第

- 一、開会のことば (岸本大会副会長)
- 二、国旗掲揚
- 三、黙祷
- 四、優勝旗返還 (小型ポンプの部 福崎町消防団、ポンプ車の部 神河町消防団) (岸谷消防協会会長)
- 五、大会会長あいさつ (井戸知事)
- 六、激励のことば (井戸知事)
- 七、来賓祝辞 (野間県議会議副議長)

- 八、選手宣誓 (加古川市消防団 池上 勲)
- 九、審査長注意 (廣田消防学校長)

大会結果

小型ポンプの部	優勝	福崎町消防団
準優勝	多可町消防団	
三位	南あわじ市消防団	
ポンプ車の部	優勝	南あわじ市消防団
準優勝	神河町消防団	
三位	多可町消防団	

全出場隊の操法終了後、大会審査長から審査結果の発表が行われると、会場からは出場選手に対して惜しみない拍手が贈られました。大会結果は次のとおりとなりました。

競技は、小型ポンプの部、ポンプ車の部の順に行われました。各出場隊ともポンプ操法の訓練の成果を十二分に発揮し、迅速かつ安全、正確な動作で火点に向けて放水が行われ、火点が落ちる度に応援団、観客から声援と拍手が沸き起こりました。

ポンプ車の部優勝の南あわじ市消防団には杉本防災監から消防庁長官表彰の優勝旗が、小型ポンプの部優勝の福崎町消防団には岸谷会長から日本消防協会長表彰の優勝旗が授与されました。

さらに、各部の優勝、準優勝、三位に輝いた消防団には兵庫県知事表彰、兵庫県消防協会長表彰が贈られました。

その後、杉本防災監による講評と嶋澤大会副会長の閉会の言葉をもち、第二四回兵庫県消防操法大会は幕を閉じました。

なお、今回ポンプ車の部で優勝した南あわじ市消防団の出場隊の皆さまは、一〇月七日(日)東京臨海広域防災公園(東京都江東区有明)で開催される全国消防操法大会に兵庫県代表として出場します。



準備



2線延長



力をあわせて



放水やめ

出場隊整列!



選手宣誓



いざ



急げ!



放水

東日本大震災を踏まえた 大規模災害時における 消防団活動のあり方等 に関する検討会報告書

消防庁

消防庁では、東日本大震災を受けて、昨年一月から「東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会」を開催して取りまとめた報告書が消防庁長官に提出され、その報告書が消防庁ホームページ上で公表されました。

消防庁ホームページ
アドレス

平成二四年三月に公開された中間報告書では、津波災害時の消防団員の安全確保対策として、地震・津波の監視・観測態勢の強化、津波警報の改善、消防団の待避ルールの確立、情報伝達体制の整備と情報伝達手段の多重化、消防団の装備・教育訓練の充実、地域ぐるみによる避難計画の作成などが提言されました。

「東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会中間報告書(平成二四年三月)」
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h24/2408/240830-1houdou/01_houkokusyo.pdf

最終の報告となる今回のとりまとめでは、消防団員の処遇や入団促進策、地域の総合防災力を高めるためにはどうしたらよいかといった観点からも検討がされています。

危険性が指摘されている南海トラフ巨大地震や首都直下地震などの大規模災害において消防団の「地域密着性」「要員動員力」「即時対応力」は欠かせないものとされ、消防団員を地域防災の重要な担い手として位置付け、団員の全国的減少を止める必要性も強調されています。



平成二四年度第一回 女性消防団員研修会

(財)兵庫県消防協会

平成二四年七月七日(土)、兵庫県消防学校において女性消防団員研修会が開催され、県下から七十一名の女性消防団員が参加しました。
研修内容は午前には講演会を行い、午後は班別に意見交換会を行いました。
講演会では兵庫県こころのケアセンターの大澤智子先生



意見交換会の様子



兵庫県
こころのケアセンター
大澤 智子先生

をお招きし「災害後のこころのケア初期対応と支援者のケア」という演題でご講演いただき、心的外傷の基礎知識やこころのケアの基本、支援者への影響と対処方法など、丁寧に説明していただきました。日頃、地域の人々との関わりが深い消防団員だからこそ、このようなメンタルケアについての正しい知識の取得が必要になると思います。
講演会に続いて午後からの意見交換会では、参加者が班ごとに「現在の消防団活動についての悩みと改善策」「今後活動していきたい内容について」の二つのテーマについて意見交換を行い、最後に各班一名ずつ話し合った内容について発表しました。各自自治体により組織構成の異なりはあるものの、共通の悩みも多く、活発な意見交換がされていました。また、今後の活動についても、防火防災指導など予防的な活動から操法訓練まで、女性消防団員の活動への意欲はとても大きく、今後の活躍が期待されます。このようにそれぞれの班で様々な意見が交換され、あっという間に時間が経ってしまいました。女性団員からは、「意見交換の機会をもっと増やしてほしい。」との意見が多く寄せられました。中には、近隣市区町の消防団が集まって意見交換会を開催すれば、もっと多くの団員が参加しやすい



大澤先生の講演



各班の発表

平成二四年四月に人と防災未来センターは開設一〇周年を迎えました。
阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し、減災社会の実現をめざすため、大震災関係の展示だけでなく、研修、研究、災害時の現地支援など実践的な防災対策の推進拠点として様々な取り組みを実施してきました。
一〇周年を迎えたことを機に、東日本大震災などの経験と教訓を踏まえた最新の知見、南海トラフの巨大地震など大規模災害への備えを発信する記念事業の実施が予定されています。

人と防災未来センター開設一〇周年

兵庫県

主な一〇周年記念事業

○一〇周年記念
国際減災フォーラム
実施時期
平成二四年
一〇月二一日
開催場所
兵庫県公館

内 容
国内外から著名な防災関係者を招いて開催する「ハイレベル国際会議」。

減災社会の実現に向けた国際協力のあり方等について議論を深め、国内外に発信。
参加費
無 料
申込方法
HPに掲載されている参加申込書により、FAXまたは電子メールでお申し込みください。
(先着順、定員に達した時点で受付終了)

○企画展「南海トラフの巨大地震」
実施時期
平成二四年
一〇月〜二一月
開催場所
人と防災未来センター

内 容
南海トラフの巨大地震をテーマに、危険性や備え等について映像・地図パネル等を活用して被害想定や対策等を分かりやすく展示。

○防災専門リレー講座
実施時期
平成二四年九月二八日〜平成二五年二月一三日(五回実施)
開催場所
兵庫県公館、人と防災未来センターなど

内 容
第一線の専門家とセンターリサーチフェロー等が、南海トラフの巨大地震に係る広域被害、長周期震動、津

波避難対策等の専門的な知見や情報について、防災行政職員、研究者、地域の防災リーダーを対象に、リレー方式で講義を実施。
参加費
無 料
申込方法
HPに掲載されている参加申込書により、FAXまたは電子メールでお申し込みください。(先着順)

このほかにも多くの企画が予定されています。人と防災未来センターホームページに内容が掲載されていますので、是非ご確認ください。
<http://www.dri.ne.jp/>



兵庫消防防災航空隊・
神戸市消防局航空機動隊

特集

空を駆ける消防隊!

七月号から引き続き、九月号でも兵庫県下全域の空を駆ける消防防災ヘリコプターについて特集します。七月号では概要と火災防御活動で活躍するヘリを紹介しましたが、今回は第二弾として「救助」「救急」などの場面での活動です！

●救助活動

救助活動は、主に山岳救助、水難救助です。平成二三年中の救助活動は三五件（うち山岳救助が二六件、水難救助が七件、その他二件）ありました。

山岳救助

県内にはアルプスのような高い山はありませんが、最近の登山ブームで神戸市の六甲山、姫路市の雪彦山、養父市の氷ノ山などでの登山者やハイカーの捜索や救助事案に出动しています。

要請を受け、出動するとまず捜索活動から始まります。現場上空到着後は、クルー全員の目で、要救助者を捜索しますが、山中での位置特定は、木々により困難な場合が多々あります。地上隊からの発煙



山岳救助活動

筒や無線での誘導が大変有効になりませんが、神戸市内の六甲山では、ヘリが先着する事案も多くあり、地上隊の支援が間に合わない場合があります。そこで、ヘリTVの赤外線画像での捜索も実施し、要救助者の発見に至ったケースもあります。

要救助者の発見後は、怪我の状態に合わせ資機材を選定し、隊員投入を実施します。当航空隊では、ラペリングとホイストによる投入を行っています。現場の状況に合わせて投入方法を決定します。

◆ラペリング：ロープを使用し、隊員自身のブレイキ操作で降下すること（安全に着地できるところに自分のタイミングで降下できるが、積載ロープが三五

メートルであるため、高度は三〇メートル以内に限られる。ロープ先端の絡みや立木への絡み等があるため、立木や着地点付近に倒木等の障害物多い場合には適していない。

◆ホイスト降下：航空隊員二名を同時投入することができワイヤーケーブルを繰り出しながら投入地点に近づき、隊員を降下させること（ホイスト装置（別添写真参照）を使って、最大二七〇キログラムを吊り上げることができる）。



ホイスト装置

地上での活動は航空隊員二名で、要救助者の接触・観察・処置、また機体との無線通信、ピックアップポイントの選定、要救助者の搬送・収容等を実施します。しかし、二名の隊員と携行資機材だけでは、山中での活動は限界があり、特に要救助者の搬送、収容等は地上隊との協力が要になる事も多くあります。

ピックアップポイントは、隊員投入された場所では困難な現場も多くあるため、選定する必要があります。大きく開けた場所ばかりではないので、機体の移動や誘導策の設定等を考慮しピックアップします。吊り上げの資機材は山岳救助では主に、減圧式担架とエバックハーネスを使用します。

◆減圧式担架：主に重症の

要救助者に使用。バックボードに固定したままでも収容でき、全身を覆う保護カバーを設けることにより保温効果もある。

◆エバックハーネス：主に軽症の要救助者に使用。素早い縛着ができ、包み込むような状態になるので安定し救出できる。比較的狭い場所でも救出できる。

水難救助

水難救助でも山岳救助同様まず捜索活動を実施します。水難現場でもヘリTVの赤外線画像が有効（水面に浮いている場合）になり、クルー全員の目とヘリTVを使用します。要救助者の発見後は隊員投入を行います。水難救助活動では、ノーカット救出というホイストのフックから隊員を離脱せずに、レスキューリングで要救助者を確保して吊り上げる救出方法を実施します。

◆レスキューリング：要救助者の胸部からスリングを回し、カラビナで接続するだけで素早い縛着が可能。要救助者の前方、後方のどちらからでも縛着する事が可能であるため、水難だけでなく山岳救助の宙づり等にも使用できる。

水難での救出では、ノーカット救出を行います。ホイストバンパーを着水させると復旧に1週間程度かかります。また救助者の目の前にバンパーがあるため、要救助者の縛着時に障害になる事もあります。そのため、ホイストフックと降下隊員の自己確保

の間三メートルのジェーン（ロープ）を付ける事で、バンパーの着水防止と救助者の活動をしやすいとしています。ノーカット救出の手順は、機内ではジェーンを束ねた状態で隊員一名がホイスト降下します。一旦陸に着地し、ジェーンの設定後対地約三メートルで要救助者の位置まで平行移動します。要救助者の位置まで到着すると、着水し素早く縛着、再び対地約三メートルで陸まで平行移動し救出します。この方法は、一度隊員が陸へ着地できる場所があることが条件で、直接要救



山岳での要救助者を救出し、速やかに病院へ搬送

助者の位置へ降下するより時間がかかるため、状況に応じて隊員一名をラペリング投入し、要救助者を確保する事も考慮し、方針を決定します。

●救急活動

医療スタッフ同乗型救急への運航

医療スタッフ同乗型救急ヘリという方式を採用し、兵庫県災害医療センター・神戸大学医学部付属病院の医師や看護師など救急医療スタッフが常時待機し、兵庫県下の消防本部の要請を受けて、病院屋上ヘリボー

救急出動件数 (平成23年1月1日～平成23年12月31日)

災害種別	救急出動								
	水難	交通事故	労働災害	一般負傷	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	その他
平成23年	1	10	7	19	1	6	20	23	1

総計 88 件



東日本大震災では自衛隊の持つ空飛ぶICU・機動衛生ユニットとの連携し救急活動を行った

ト又は神戸ヘリポートからヘリコプターに同乗し、災害現場へ向かうドクターヘリのな運用を行っています。毎年、医師同乗型医療スタッフ研修では、医療機関の皆さんと合同の研修会を実施し、顔の見える関係を築き現場活動を行っています。

・メディカルコントロール体制
 兵庫県消防防災航空隊・神戸市消防局航空機動隊には三名の救急救命士が県下消防本部から派遣されています。これまでは、航空隊におけるメディカルコントロール体制が構築されていなかったため、現場で特定行為を含む救命処置（気管挿管・輸液ライン確保・薬剤投与）が行えませんでした。こうしたことから県民の救命率の向上を図るため、救急救命士を含む救助隊員が救命処置を行う環境を整え、平成二四年四月一日から兵庫県消防防災航空隊・神戸市消防局航空機動隊のメディカルコントロール体制を構築し、心肺機能停止の患者に対して医師のメディカルコントロール下の気管挿管、輸液ライン確保、薬剤使用ができるようになりまし。今後、兵庫県消防防災航空隊・神戸市消



ヘリポートにて

防局航空機動隊における救急救命士の充実した配置がより重要になってくるでしょう。

●その他活動
 ・情報収集活動
 救急活動、救助活動、火災防衛活動において、早期に災害状況を把握する必要がある場合、情報収集活動を実施します。
 ・災害応急対策活動（応援活動・緊急消防援助隊・広域航空応援等）
 ・被害状況等の調査及び情報収集活動
 地震、津波等の自然災害が発生若しくは発生する恐れがある場合、広範囲にわたる状況把握調査、情報収集活動を行うとともに、その状況を監視します。
 ・食料、衣料その他の生活必需品及び復旧資機材等の救援物資、人員等の搬送
 災害が発生し又は発生する恐れがある場合、食料、衣



料、その他の生活必需品・復旧資機材等の救援物資、医薬品、人員等を輸送又は搬送します。
 ・災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動（広報宣伝活動）
 災害に関する情報及び避難命令等の情報、警告等を上空から呼びかけます。



目を迎え、兵庫県下の消防・防災業務に必要不可欠な任務を担っていると考えています。複雑多様化する災害や近い将来発生すると言われている東海・東南海・南海地震等への備えを考えれば、消防行政に対するニーズは非常に高く、消防防災航空隊に求められる役割も重要です。県下消防本部に対しても、消防防災ヘリコプターの有効性を強く訴え、迅速且つ的確に要請の判断をしていただくためには各種専科教育・航空機連携講習会等を通じて地上隊の皆さんと顔の見える関係を築き、防災ヘ



リコプターを一つのツールとして活用して頂きたいと思えます。まだまだ、検討課題は多く残っていますが、兵庫県下全域を活動範囲とする消防防災航空隊は、県民の皆様に対し「安全・安心」を担っていくために、各消防本部との連携訓練や自隊訓練を行い、最善の活動ができるよう県・市隊員一体となって日々の業務に励んでいます。

料、その他の生活必需品・復旧資機材等の救援物資、医薬品、人員等を輸送又は搬送します。
 ・災害に関する情報、警報等の伝達等広報宣伝活動（広報宣伝活動）
 災害に関する情報及び避難命令等の情報、警告等を上空から呼びかけます。

目を迎え、兵庫県下の消防・防災業務に必要不可欠な任務を担っていると考えています。複雑多様化する災害や近い将来発生すると言われている東海・東南海・南海地震等への備えを考えれば、消防行政に対するニーズは非常に高く、消防防災航空隊に求められる役割も重要です。県下消防本部に対しても、消防防災ヘリコプターの有効性を強く訴え、迅速且つ的確に要請の判断をしていただくためには各種専科教育・航空機連携講習会等を通じて地上隊の皆さんと顔の見える関係を築き、防災ヘ

リコプターを一つのツールとして活用して頂きたいと思えます。まだまだ、検討課題は多く残っていますが、兵庫県下全域を活動範囲とする消防防災航空隊は、県民の皆様に対し「安全・安心」を担っていくために、各消防本部との連携訓練や自隊訓練を行い、最善の活動ができるよう県・市隊員一体となって日々の業務に励んでいます。



コラム
 平成二三年中の主な災害

高砂市林野火災

一月二四日、高砂市で発生した林野火災に出動。一月二七日までの四日間、撒水消火活動及び情報収集活動を実施しました。
 (林野 約二一七ヘクタール焼損)

姫路市林野火災

四月四日、姫路市で発生した林野火災に出動。四月六日までの三日間、撒水消火活動及び情報収集活動を実施しました。
 (林野 約六三ヘクタール焼損)

台風一二号に伴う被害状況調査

九月四日、台風一二号に伴う被害状況の調査出動。姫路市、加古川市、加西市、多可郡の河川状況と土砂崩れ現場の調査を行い、兵庫県災害警戒本部に対してヘリTV画像伝送及び被害状況の報告を実施しました。

兵庫県消防防災航空隊の今後の目標
 神戸市消防局警防部航空機動隊と共同運航を開始して9年

兵庫県消防防災航空隊



「津波・水害への備え」

姫路市飾磨消防団長 富田 重二

飾磨消防団のピックアップに関しては、水防活動中の団員が増水した川や海に転落する等の二次災害に巻き込まれるのを防ぐため、あるいは二次災害に遭った時に迅速かつ冷静に対処し、生命危険を脱することができるよう今年度の水防訓練としてライフジャケット装着訓練と着衣泳法を実施したとついで記載いたします。

平成二十三年は、東日本で津波により多くの生命と財産が失われる大災害が発生した事は、皆様もよくご存知の事と思います。私たちの仲間である多くの消防団員が避難誘導等で活動中に殉職され、その殆どの方が溺死されました。

飾磨消防団が管轄する瀬戸内海沿岸では、海拔〇メートルに近い状態の低地域で、集中豪雨が長く続いた時には、上流からの流れ込みも激しく、満潮時と重なると一帯で道路冠水や床下浸水が起き、消防団員は毎年のように水防活動で出動しています。

その際、夜間の場合は、道路が冠水し、水路と道路の区別がつきにくく、激流に流され生命を失う危険性があります。昨年九月の台風十二号では、市川(二級河川)の水位が

危険水位に迫り姫路市は、初めて市川流域の十万人に避難勧告を発令しましたが、幸い大事には至らず、出動した消防団員も無事に、住民への避難誘導活動を行いました。

しかし、隣接する加古川市では、消防職員が住民の避難誘導の活動中、濁流に流され不幸にも殉職されました。

昨年の災害以前から消防団員の安全を図るためにライフジャケットの必要性を認識して、貸与を強く要望しておりました結果、平成二十四年上期中に全ての分団に貸与される事が決まりました。

この度、貸与を前にして七月十五日にライフジャケットの装着と着衣泳法の訓練を実施しました。

今回の訓練は、近隣の学校プールを借用し消防職員(水難救助隊員)の指導の下、まず、ライフジャケットの正しい装着方法を学び、装着時と未装着時の違いと効果を体験し真剣に訓練に取り組みました。

① ライフジャケット

装着訓練

ライフジャケットは、緩みの無いように着装しなければ脱げることがあり、また後ろ向きに泳ぐと泳ぎやすいいことを学びました。



ライフジャケット装着訓練

次にライフジャケット未装着時の体験に合わせ、着衣泳法について学び、万一ライフジャケットを装着せず、着衣のまま水中に転落した時に助かるための技術を習得しました。着衣泳法とは、服を着たまま水中に転落した時に、服を脱ごうとしたり無理に泳いだりせず、救助者が来るまで仰向けに「浮いて待つ」ことで体力の消耗を軽減し、救助される可能性が高くなる自分の生命を助ける「助かる救助法」です。

② 着衣泳訓練

活動服で入水し、浮かんで待つ訓練を実施。また、運動靴、二リットルのペットボトル等の浮力を体感し、運動靴を履いたまま水中に落ちた時は服だけではなく、靴も無理に脱がないこと、水中に落ちた人を発見した時には、ペットボトルを投げ渡して助ける対処方法もあることを学びました。

最後に水害避難時の危険及び対処方法として、実際の



着衣泳訓練

水防活動において避難誘導時に水中に転落した場合を想定して訓練を実施し、生命の危険性を体験しました。

③ 水害避難時の危険及び対処訓練

まず活動服と雨衣と長靴で水中に転落し、身動きがとれず泳げない事を体験した後、ライフジャケットをその上から装着し、改めてライフジャケットの効果と重要性を認識しました。



水害避難時の危険及び対処訓練

「五〇周年を迎えて」

播磨町消防団



「播磨町」町制施行50周年記念式典

状が贈呈されました。五〇周年を振り返ると、昭和四〇年代は、手引きの小型動力ポンプしか配備されておらず、火災発動時には、数人で火災現場まで押して行かなければならず、鎮火後の分団までの帰り道が辛く大変だったこと。また幾度となく来襲し猛威を振るった台風等による水害に対して、日夜を通して行つた水防活動が今でも思い起こされま

す。昭和五三年には、常備消防事務を加古川市に委託し、平成一二年には、地域住民の永年の願いであった加古川市東消防署播磨分署が町内に設置され、消防業務及び救急業務の迅速化が図られました。

平成一八

年度には、女性分団が発足し、一団一二分団となりました。

女性分団は、全国女性消防団員活性化奈良大会で啓発劇を披露するなど、その卓越した演技力を通して、幼児、高齢者を中心に、防火、防災啓発に努めると共に、消防団のイメージアップや、消防団の活性化を図るなど、大活躍しています。

また、毎年恒例の、非常呼集・放水訓練、消防車両パレード等の行事に加え、今年度には、東日本大震災の教訓から、東南海・南海地震による津波に備え、住民と一体となった、津波避難誘導訓練を実施する計画です。

今後においても、諸先輩方の築いてこられた、誇りある消防団の歴史を受継ぎ、播磨町消防団一丸となって、地域住民の財産、生命を守り、安心して暮らせる安全なまちづくりのために努力していきます。



非常呼集

わが町の団長さん

「祭り大好き 団長さん」

神戸市東灘消防団 団長

乃生 省悟



神戸市東灘区は文字どおり神戸市の東端に位置し、緑豊かな六甲山脈を北側に配し、南には瀬戸内の海をたたえた地域で、国内において著名な「灘五郷」の酒造会社が集積するなど、多様な町並を形成しています。

町並みは都会的ですが古くからの気質が色濃く残る地域で、特に春、秋に行われる各神社の祭りでは、地車が勇壮に街中を駆け巡り、街の通りはお祭り大好きな住民であふれます。

乃生団長率いる神戸市東灘消防団は、昭和三十一年一月に結成され、現在は総勢一五〇名、一〇分団で構成されています。

乃生団長は平成三年八月に消防団員を拝命、入団以来、持ち前の行動力と統率力が評価され、数々の役職を歴任し、その実績と人望の厚さにより、平成二十四年四月に団長に就任されました。

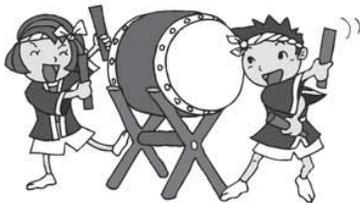
お仕事は、水道設備業を営んでおられ、大変お忙しい中、地域行事や災害出動にと日夜

を問わず東灘区民の為に活躍されています。

乃生団長は地元神社の奉賛会に入っておられ、祭りでは副会長としての重責をはたされています。

今年からは、お孫さんが中学生になり、長年の夢であった、親子、孫と三代揃って地車を引ける事を大変喜んでおられます。

今後も地域の防災の担い手として、健康には十分ご留意いただき、神戸市東灘消防団を率いていただきたいと願っております。



「安全で安心に暮らせる町を目指して」

加古川市消防団

一井 三好



加古川市は、一級河川「加古川」が市のほぼ中央部を流

れており、水の恵みを受け、発展してきたまちです。臨海部は東播磨地区石油コンビナート等特別防災区域を含む工業地域があり、中央部にはJR加古川駅を中心とした商業地区が拡がり、北部は田園地帯から山林へと続いています。このような地域性のため、火災種別は工場火災や密集地での火災、林野火災など多種多様であり、これらの火災に対応するため、消防団は常に消火訓練等を積み重ねています。また、自主防災組織の訓練指導や地域での行事等にも積極的に参加しています。

このような加古川市消防団に、一井団長は昭和四六年に入団、以来四一年間消防団活動を続けられ、消防団に対する情熱と行動力、そして実績と経験を持つ、平成二十四年四月に第八代消防団長に就任されました。

入団当初から、消防団の活性化を願い、施設・装備の充実をはじめ団員の確保にも尽力され、団幹部時代には、女性消防団員二〇名をもって平成一八年四月に女性分団を発足させ、現在では一団本部、一九分団、団員数一一八六名の体制で活動しています。

今後は、さらなる発展を目指し、有事の際はもろろんのごとく団員一丸となり、火災予防や自主防災組織の育成及び救命講習の普及に積極的に取り組み、市民が安全で安心に暮らせる町を目指し、日々活躍されています。

われら 若手消防団員

消防団に入団して

神戸市北消防団山田支団 鈴蘭台分団班長

田中 雄樹



私が消防団に入団した動機は、あの一七年前の一月一七日に発生した、阪神淡路大震災を経験した一人として、地域防災に貢献できればと思いで入団を決意しました。

消防団に入団して、初めて火災現場に出動したときの事は今でも忘れることができません。

しかし、それよりも忘れることができない事は、昨年の三月一日に発生した東日本大震災のことです。

私は、震災後に、ボランティアの一員として、陸前高田市を訪れ、現地の消防団員の方や、消防職員OBの方々と話す機会があり、津波警報が発令されている最中、住民の避難誘導や、水門閉鎖に向か

い、多数の現地の消防団員の方々が殉職された事を知りました。また、報道で見る東北の地と、自分の目で見た東北の地は想像をはるかに超え、三六〇度どこを見渡しても建物はなく自然に涙がこぼれました。消防団に入団して以来、初めて無力感を感じた瞬間でもありました。

私は、東日本大震災で学んだ事を活かして地域の方々の期待に応えるべく、今後も郷土愛護の精神で消防団活動に従事していく所存です。

最後になりましたが、東日本大震災で殉職された現地の消防団員の方々に敬意を表したいと思います。

女性の目線で火災ゼロの取り組みを



豊岡市 出石消防団 女性消防団 部長 中村 明子

豊岡市出石消防団女性消防団員は、北但初の女性消防団として、平成五年に発足、団員五名でスタートしました。

主な任務は女性の持つソフトな感覚、優しさを活かした地域住民に予防消防の重要さと防火意識の向上を図るため広報

啓発を中心に活動しています。春、秋の火災予防週間、年末警戒の巡回広報はもとより、四季を通じて週二回広報車でマイクを持ち地域を巡回し、安心安全な暮らしを守っていただけるような啓発に努めています。また、出初式や出石消防団操法大会等の式典の進行補助、秋には幼稚園児が行う幼年防火パレードに幼稚園児達と共に町内を練り歩き火災予防啓発を行っています。

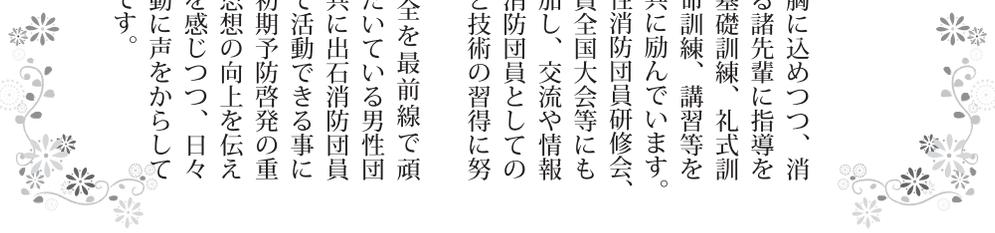
発足当時は、歴史ある男性消防組織の中で、右も左もわからない素人女性陣…。 どう取り組んでいけばいいのか、何から進めていけばいいのか…。 台本なし！ 試行錯誤。 家族の協力や理解に感謝

市民の安全を最前線で頑張っていたら、出石消防団員の方々と共に出石消防団の一員として活動できる事に誇りを感じ初期予防啓発の重要性、防火思想の向上を伝える事の責任を感じつつ、日々啓発広報活動に声をからしているところ

の気持ちを胸に込めつつ、消防魂あふれる諸先輩に指導を頂きながら基礎訓練、礼式訓練、救急救命訓練、講習等を男性団員と共に励んでいます。また、県女性消防団員研修会、女性消防団員全国大会等にも積極的に参加し、交流や情報収集を行い消防団員としての意識の向上と技術の習得に努めています。



がんばってます、女性消防団員



田舎×アートⅡ〇〇〇

養父市大屋地域では、全国でも珍しい木彫り作品の全国公募展「木彫フォークアートおおや」を平成六年から毎年開催しており、今年で一九回目を迎えます。例年この公募展には、木の醸し出す温かさ、安らぎを感じさせる多彩な作品、約二〇〇点が大屋に集まります。

最大の特徴は、作品の大きさを宅配便に収まるサイズと規定しており、手軽に作品を郵送できるため、全国各地から多彩で発想豊かな作品が集まってきました。また、プロ・アマ関係なく応募でき、入賞者は美術専門誌で紹介されるなど注目を集めており、現在では木彫作家への登竜門として位置づけられています。

応募のあった全ての作品は、おおよそホールにて無料で鑑賞することができ、会場周辺で木彫り体験や、木彫作品等の販売もされることから、期間中は京阪神を中心に約五千人もの来場者が訪れます。

また、平成二四年四月より、廃校になった旧八鹿高等学校大屋校の校舎跡を活用した「おおよやアート村ビックラボ」が、くらしとアートをつなぐ場所としてオープンしました。



会場周辺での木彫体験風景

かつての体育館は展示場として、絵画や陶芸、約三メートルを超える大型木彫作品等が展示されています。また、趣のある木造校舎は創作棟として、木彫・木工・書・陶芸・染織など多種多様なアートが体験できる『ひらめきスペース』や、アーティストが自由に使える貸しアトリエとなっており、自由に全く新しい空間が完成しました。

木彫フォークアートという新しいジャンルの芸術を発信



BIG LABO展示場内

養父市

第一九回公募展 木彫フォークアート 展覧会

★日時 平成二四年九月二一日(金) ～ 二〇月八日(月)

★会場 養父市立おおよやホール (養父市大屋町山路七番地)

★お問い合わせ先 養父市大屋地域局 電話 〇七九一六六九〇二二〇

し続けて約二〇年、その延長上にビックラボという拠点施設が完成し、田舎×アートという新しい試みは、但馬の山間部の自然あふれる自由さ・のどかさ・安らぎという雰囲気と、アートが与える驚き・楽しさ、そして作るという刺激が絶妙に融合し、人が集まり賑わいを生み出す『きっかけ』となっています。

この秋、新しい出会いと発見を養父市大屋町で見つけてみてはいかがでしょうか。



作品が並ぶフォークアート会場内

各種イベント紹介

相生市は、昭和一七年一月一日に兵庫県で九番目の市として誕生、平成二四年一月一日で市制施行七〇周年の節目を迎えます。

当市では、定住促進事業に力を入れ人口減少や少子化に少しでも歯止めをかけるべく定住促進、教育・子育て施策を実施し、市内外に向け、PRに努めています。

施策内容の一部を紹介しま

な定住性の高いまちづくりを目指しています。

次に、当市のイベント見どころ情報を紹介します。市の伝統行事であるペーロン(白龍)をテーマにした「白龍城」があり天然温泉が楽しめます。春には、万葉の岬から相生湾と播磨灘の絶景と椿や桜を遠くに淡路島、家島諸島、牛窓など瀬戸内海の島々が点在し、一目に楽しむことができます。

五月には、播州地方に初夏を告げる一大イベントである

相生市

地域のお知らせ



ペーロン競争

す。教育では幼小中学校給食の無料化、小中学校通学費の無料化、市立幼稚園保育料の無料化、保育所・私立幼稚園保育料の軽減、市立幼稚園預かり保育があります。その他には、新婚世帯賃貸住宅家賃補助、転入者住宅取得奨励金交付、若者定住促進奨励金の交付などがあり、元氣な相生、魅力ある活気のある都市づくり「いのち輝き 絆でつなぐ あいのまち」をモットーに未来の世代に引継ぐ持続可能

ペーロン祭が行われ、前夜祭の海上花火大会では、約五、〇〇〇発の花

火が打ち上げられます。ペーロン祭では、名物のペーロン競漕を中心

に、パレード・カーニバルなど各種の協賛行事で賑わい、



ペーロン前夜祭花火

編集後記

残暑お見舞い申し上げます。今月号も各地区から多数の寄稿をいただきました。さて、今月号では、第二四回兵庫県消防操法大会について掲載しております。

猛暑のなか、大会に向けて、仕事を終えてから練習を積み重ね、選手として出場された方、朝早くから応援に駆けつけられた皆さま、お疲れ様でした。

全国大会に出場される南あわじ市消防団には、兵庫県代表として、立派な成績を収められるようお祈り申し上げます。

暦のうえでは秋と言ってもまだまだ暑い日が続いております。お体にはくれぐれもご自愛ください。

最後に、相生市消防団は、管内を一分団に管轄され、五二〇名の消防団員が在籍、災害を問わずこれらのイベントにも積極的に協力し地域に密着した活動を展開しており地域住民をはじめ市民に親しまれ信頼される存在であり、ますます市民の寄せる期待は大であります。

【お詫びと訂正】 「兵庫消防」平成二四年七月一五日発行第六四一号の『平成二四年度兵庫県まとい会理事会・研修会開催』中の兵庫県まとい会新役員紹介記事において、一部記載に漏れがありました。関係各位の皆さまに深くお詫び申し上げますとともに、再発防止に努めます。

【兵庫県まとい会新役員】 副会長 北播磨地区 西脇市支部 藤原 敏伸